「令和６（2024）年　霞ヶ浦北浦に生息する重要魚種の資源診断書」

テナガエビ（霞ヶ浦）

生態的特徴等：

【生態】

・河口域や湖沼などの流れのゆるやかな水域に分布し、本州、四国、九州など国内に広く分布する。県内では、利根川水系、牛久沼、霞ヶ浦・北浦、涸沼、那珂川水系、久慈川水系などに分布する。

・寿命は、メスが１年、オスが２年といわれ、オスは第２胸脚が体長以上に長くなる。

・霞ヶ浦・北浦における抱卵期は、５月下旬～９月頃で、盛期は７～８月。ただし、抱卵は水温の影響を受けるため 10 月や 11 月まで続くこともある。

・季節的には、水温の高い６～９月は沖から岸近くまで分布するが、水温が低下する 10 月以降は主に沖合の深所に分布するほか、物かげに蝟集する傾向がある。

【漁法と漁期】

・わかさぎ・しらうおひき網漁業（トロール漁）、いさざ・ごろひき網漁業（横ひき網漁）などの底曳網やます網漁業（張網）、つけ漁業（笹浸）などで、周年にわたり漁獲される。

【資源管理の取組】

・トロール漁において、産卵期保護のため試験操業による解禁日の設定や資源動向に応じた操業時間の変更、親魚保護のため保護区域の設定や終漁日の設定などの取組が行われている。

【利用】

・霞ヶ浦北浦で漁獲されたものは釜揚げや佃煮、素揚げ等として食される。稚エビは地元で「ザザエビ」と呼ばれ、成長したエビよりも軟らかく食べやすい。

資源診断：

資源水準は低位、動向は減少傾向	水　準
（漁獲量）H4 年から H9 年には 1,400～2,500 トンの水準で推移したが、H10 年以降は減少傾向になり、H15 年には 322 トンとなった。H16 年から H23 年までは平均 500 トンの水準で横ばいだったが、H24 年以降は 300 トンを下回るようになり、R5 年は 79 トンとなった。 （水準と動向）R5 年の資源水準は過去 30 年の漁獲量から「低位」、R6 年までの直近 5 年間の動向は、操業日誌を基に計算した CPUE（kg/隻･時間）の傾向から「減少」とした（図 2）。	**低位** 動　向 ↘

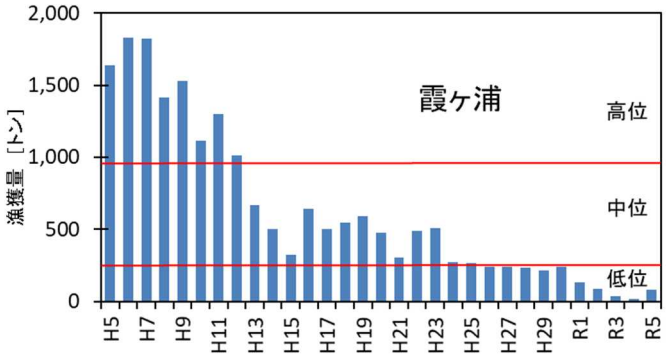

図１　エビ類の漁獲量（農林水産統計、属人）

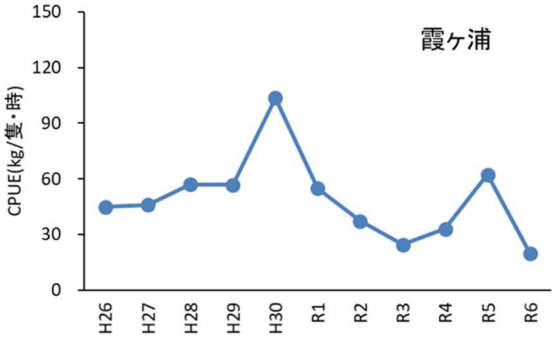

図２　エビ類の CPUE（１隻・１時間当たりの漁獲量 kg）

【全国の漁獲順位】エビ類 R5 年：1 位：茨城県、2 位：滋賀県、3 位：北海道

（使用データ）資源水準：令和 5 年までの農林統計値　資源動向：令和 6 年 12 月までの操業日誌

更新日：令和 7 年 4 月 23 日

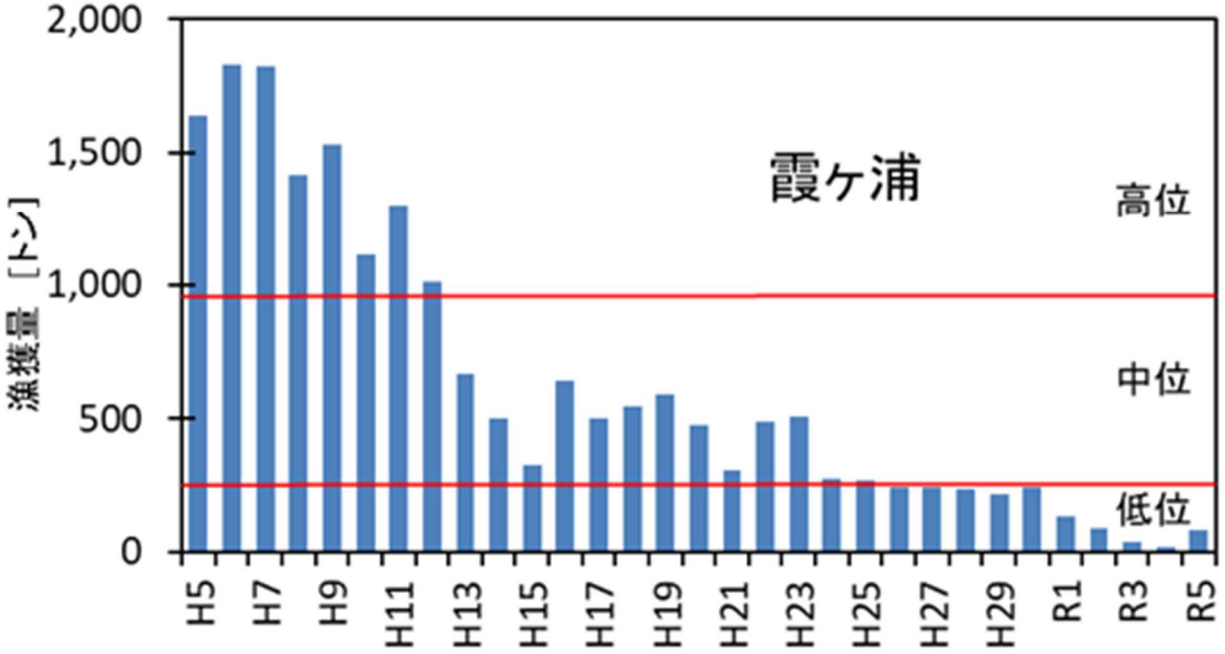

図１　エビ類の漁獲量（農林水産統計、属人）

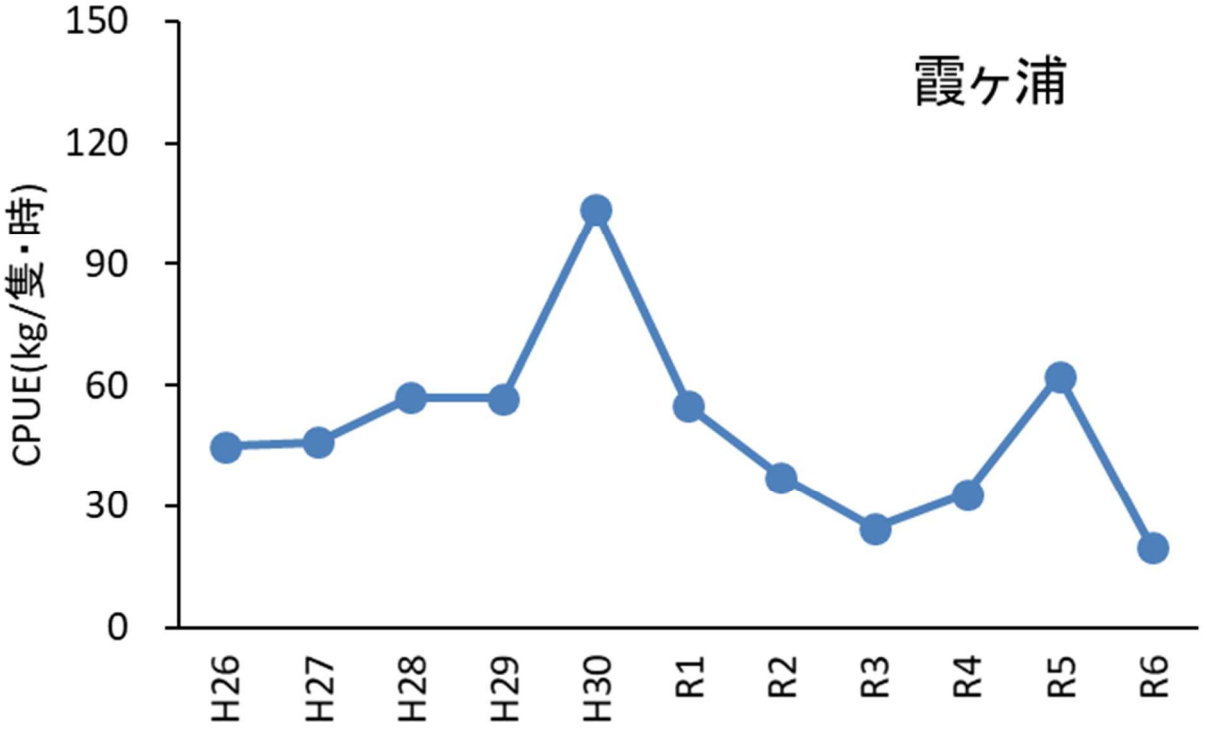

図２　エビ類の CPUE（１隻・１時間当たりの漁獲量 kg）

（使用データ）資源水準：令和５年までの農林統計値　資源動向：令和６年 12 月までの操業日誌

更新日：令和７年４月 23 日